

刊行に寄せて



文部科学大臣

柴山 昌彦

近年、価値の中心が「物」から「情報」や「知恵」に移行し、あらゆる製品やサービスの高付加価値化が進んだ知識集約型と呼ばれる社会への転換が起こっています。知識集約型社会においては多種多様な知をどれだけ糾合できるかによって将来の可能性や選択肢が変わってくるため、「真理の探究」、「基本原理の解明」や「新たな知の発見や創出」など、卓越した新たな発想を追求し、創造する知的活動である「基礎研究」の重要性はより一層高まっています。基礎研究の成果の蓄積と展開は、長期的な社会課題の解決や新産業の創出とともに、将来の社会や生活に全く新しい価値をもたらし得る社会発展の基盤です。

世界全体で経済や社会が大きな転機を迎えている中、我が国は現状をどのように捉え、今後どこへ進んでいくべきか。本白書では、基礎研究が社会にもたらす価値や基礎研究を支える技術等について事例を交えながら具体的に紹介しています。

また、基礎研究の成果を迅速に社会展開していくためには、組織やセクターを越えて、知識、人材、資金が循環し、その各々の持つ力を十分に引き出すことができる仕組みの構築が必要です。その構築に向けた、法律や税制をはじめ、政府において推進している様々な制度面、システム面の改革の様子も紹介しています。

これらを通して、基礎研究による知の蓄積と展開についての意義と重要性について今一度考える機会としていただければ幸いです。

今後より一層の少子高齢化やグローバル化が進展する社会において、Society 5.0に向けた人材育成やイノベーション創出の基盤となる大学改革などが急務となっています。このため、国の責任において、意欲ある若者の高等教育機関への進学機会を確保する一方で、高等教育・研究機関の取組・成果に応じた手厚い支援と厳格な評価を徹底することにより、「教育」「研究」「ガバナンス」改革を一体的に進める政策パッケージを「高等教育・研究改革イニシアティブ（柴山イニシアティブ）」として取りまとめました。今後、大学や公的研究機関等がその力を最大限に発揮し、未来社会を創造する中核的な存在となるよう、全力で取り組んでまいります。

本白書が、国民の皆さまにとって科学技術の振興に関する施策の現状を理解いただく一助となるとともに、関係者の皆さまにとって今後の取組の参考となることを願っています。